

景観学習 和賀西中学校(2回目)

【日時】平成22年1月27日(木) 13:20~15:10

【会場】和賀西中学校

参加者：和賀西中学校1年生 42名

1. 景観シートの作成

景観学習の2回目は、1回目の後、冬休みの宿題としてデジカメで撮影してきたみなさんが他の人に見せたい景観を共有する授業です。

はじめに、それぞれが撮影してきた日常生活で気になる、好きな景観の写真から、みんなに見せたい景観を3枚、はじめに選びます。

その後、その写真を景観シートに貼りつけ、「○○○な景観」という題名をつけます。題名は例えば、

- ・「好きな景観」
- ・「嫌いな景観」
- ・「気になる景観」

とします。

その後、その写真の説明を書き、最後に写真に題名をつけます。



2. 生徒の発表

グループごとにどのような景観の写真を撮ってきたかを確認し、発表し合ったのち、グループで1点、景観シートを選択し、全体の前で発表を行いました。

- ①かわいい景観です。題名は「お父さん、起きません」です。私は猫が大好きなので、うちで飼っている猫が身近にいてよかったです。ちなみに、写真の右の猫がお父さんで左が子供の親子です。



- ②この景観はすてきな景観です。題名は「太陽と木」です。この景観は朝の7時に外の太陽を撮った景観です。木に隠れていてすごくきれいなので、この景観を撮りました。



③これは好きな景観です。題名は「なつかしい」です。なぜこれを撮ったかという、いつもお世話になっているそばの家で、好きだから撮りました。



⑥この景観は不思議な景観です。題名は「となりのトトロ」です。真ん中の木を見ているとトトロに見えてきたので、撮りました。



④これは不気味な景観です。題名は「生きる家」です。この景観は、家に血管がとおっているようで、少し気味悪かったから撮りました。



⑦これはきれいな景観を撮りました。題名は「川の流れるように」です。川の両側に雪が積もっていてきれいだったから撮りました。



⑤これはすてきな景観です。題名は「奥の細道もどき」です。僕がすてきな景観と名付けた理由は、この木に積もった雪が光を反射して、とてもすてきだったからです。



⑧これは不思議な景観です。題名は「安全第二？」です。この景観を選んだ理由は、安全第一とはよく聞くけど、安全第二は初めて聞いたので、不思議だと思いました。



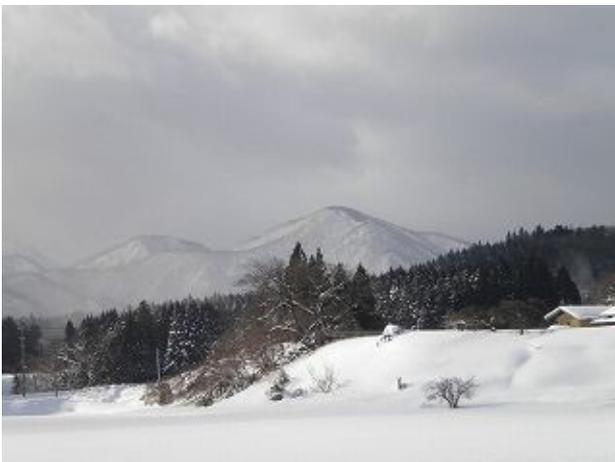
3. 北原先生のお話

みんなの写真を見て、全部違う人の写真ですが、特徴的なものがいくつかありました。

最初は、山です。遠くに山があって、近くに田んぼとかがあって、というような世界の写真からいきます。景色には遠景、中景、近景というのがあります。バックに遠くに山が見えたらそれは遠景で、真ん中ぐらいただと中景です。景色というのはそれら3つが重なって行って成り立っています。そういう遠くを見ている景色を撮っている子が何人かいました。



特に和賀のこの写真を見たときに、すごくいい写真だと思いました。この写真ははっきり言って、みんな冬に撮っているから天気が悪い時が多かったのですが、青い空と遠くにちょっと雪がかかっている山と、そして里山の部分の木立と土と、というように見事上から下まで構成が入っていて、こういうのはずっと忘れない自分達が住んでいるところの風景です。こういう見方で撮っている写真をいくつか続けます。



この写真のようにいくつか、このまちを大きくとらえた景色を撮ってきた人が何人かいました。

遠くを見る景色、うっすらとしたものを見る景色、近くを見る景色、同じ緑といっても意味が違います。

ここからはもう少し近いところから見て、木や雪を見ている写真です。木を撮るといってもこの木を撮っている見方は、雪の日の木がしっかり立っているところが撮りたかった、でもこの写真は雪の日に光って見える木立です。



この写真は、もっと寒い時の写真です。寒い中で撮っている雰囲気味わえます。

そういうなかで、この写真は夏や春だったらきつとこの絵の部分がいだろうなど、雪の中だとちょっと、でも全くないよりもこうやって絵を書いてくれているから、真っ白な雪の中で道路のへりにちゃんとある欄干がわかります。こういうのも人間がつくった景観です。

雪国らしい景観です。これを撮ったのは誰ですか？これはどういう意味で撮りましたか？

(生徒)「奥にある雪が、下に道路があってその2倍の高さになっているのがすごいと思って撮りました。」



わかりました。今日みたいにカードを見ていると楽ですが、写真だけ見ていると何の写真なのだろうと思うわけです。その時写真の真ん中にあるものを撮りたかったのだろうなと思いました。たぶんこの雪だろうと思いました。今、彼が言った、この後ろ側に道路があって、その高さの倍に雪が固められているのがどうしても撮りたかったという話を聞くと、その力、その雪を撮りたかったのだということがわかります。

この写真を撮った人は誰ですか？これは何を撮りたかったのですか？

(生徒)「これは中学校の近くの木で、いつもこの木を見ているので撮りました。」



わかりました。今日聞こうと思っていました。木を撮りたかったのか、その後ろの建物なのか、あるいはこの白い欄干なのか、全体の風景なのかと。木を撮りたかった、いつも見ていると言いました、いつも学校に来る時に見ている風景というのは、年をとっても忘れません。写真というのは、写真だけではありません、それを撮りたかったその人の目のピントがどこに合っているか。カメラはどこでもピントが合います。一番ピントが合うのは

ど真ん中です。でも自分が撮りたかった、心のピントはどこに合っているかというのを聞いてみるとおもしろい。景観の学習というのは、僕は、私は、こんなものを撮りたかったという話をお互いにしていくとすごく楽しくなります。

この写真は誰ですか？これは何をねらいにしたいと思いましたか？

(生徒)「木に雪が積もっていてきれいだったから撮りました。」



そうですね。この木の形もそうですし、木の伸び方といい、とてもいい。僕はこれを撮りたいのだなとすぐわかりました。迫力もあるし。雪国だから雪景色はいつも見ている、ではなくて、それでも雪がのっているのを表現したかったのだなということがわかります。

この木の迫力はすごいです。一本の木をクローズアップして、さっきみたいにまともっていてちょっと離れたところから見る景色もいいのですが、この木はすごく迫力があって、冬の中で雪をのせながら、とてもいい角度で撮っていてすごくいい写真だと思います。



これもすごくいい写真です。これは雪がのっていない写真ですが、木が高いということ、これはテクニックで言うておきますが、ものの高さを表現したい時は下から上を眺めて撮るとうわっと写ります。遠くから眺めるのではなくて真下から撮ると、本当に迫力のある高さに写ります。これは光もいいし、雪というよりも木がしっかり立っている写真でとても力強い。上手だと思ったのは、ど真ん中にでかい柱をもってきて撮っている。いい写真だなと思ってこれを選びました。

この写真は誰ですか？これは何を撮りたかったですか？

(生徒)「街頭でオレンジ色になっているのがきれいだったから撮りました。」



わかりました。この色は不自然な、人工的な色なのに、一体何なのだろうと思って聞きたかったのです。枝の部分がすぐ側にある街灯で色が変わっています。すごくおもしろいのですが、意識の中で写真屋さんの話で言うとトリミングしているのです。というのは、普通これを撮る時に、街灯があって脇に木があって街灯の色が反射している写真を撮れば、彼がしゃべらなくても、街灯のオレンジの電球が点いていて隣りの木に影響している、とわかるのですが、その街灯をわざと撮らずに、こんなに拡大して撮っていると、このトリックはわからないわけです。何だろう、このオレンジ色みたいな変な色の木は、となるわけです。こういう風に撮っていくのも、自分の写真の中でここからここまで人に見せない、そういう気持ちで撮っていくと景観というのは、ここは見ない、わざと見せないという風に見ていくと楽しめると思います。

この写真は誰ですか？これは何を撮りたかったのですか？

(生徒)「枝に雪がかかっている、空を背景にしたかったので撮りました。」

僕がこの写真を選んだ理由は、この撮り方は秀逸で、後ろ側の空がうっすらと写っているなかで枝を撮っていると思ったら、彼女はその通り言いました。撮る時、どういう風に見ているかというのが写真に現れますから、ただ枝を撮って雪が積もっている、ではなくて、その後ろの青い背景、この色は絵具で描こうと思っても描けないです。本当に自然な不思議な色です。よく見つけたなと思いました。



この写真は、やっぱりトトロというタイトルがつくなと思いましたが、それよりも僕がおもしろかったのは、この木をど真ん中にしながら道路が分かれていくという、彼は別の向こう側に線がながっていく写真も撮っていると思うのですが、この写真もそうではないですか？そういう人なのです。向こうに延びているのを撮りたいのだろうなと思いました。向こう側に延びていくというすごく気持ちのいい写真です。

北海道の話ですが、昔、日本の本州の場合には元々城下町ですから、江戸時代にも道路があって、火事や地震がこない限りその道路は残っています。ところが北海道は、開拓してつくりました。どういう道路をひいてもよかったです。まったくの白いスケッチブックに道路をひけと言われてみんな困ります。どうしたか。目印として遠くの山を見て、その山に向かって真っすぐに道路をひきます。それを山あてと言います。だから日本の道路も実は、この道路は絶対あの山に向かっていくという道路があるのです。今度まちを歩

いている時に、真っすぐ伸びている道路で遠くに何が見えるか見てみてください。そのことをきくと意識してつくっている道路が結構あります。



この写真は誰ですか？これは何を伝えたかったのですか。

冷たい景色ですが、でも春が来たらここはどういう風になるのかなと期待させるような写真です。僕はとても春を見たいなと思いました。

この写真は誰ですか？これはどんな気持ちで撮りましたか？

(生徒)「堰と道路が同じ形に曲がっていて変わっているなと思いました。」



僕もこれを選んだ理由は、この見事な並行というか、2つのコースがあるみたいになっている、上手につくったなと、不思議な景観というかおもしろい景観だなと思って選びました。さっきの線路とかこういうものはなかなか撮るチャンスがないのでこういう景観も楽しいです。

小さな部分に目を向けている写真もいくつかありました。こういう写真もありました。やっぱりこの地域だから、こういう自分の家から見た時

に見える景色というのは、これこそまさに近景です。ちょっと危ないけれどもちょっとユーモラスな写真です。

この写真は、猫の写真はいくつかあったのですが、猫が縁側にぼーっとしている、仲の良さそうな写真です。僕はこの猫も好きですが、この写真の挑戦的な猫も好きです。動きのある写真です。

この写真は誰ですか？これは何の写真ですか？

(生徒)「家の庭に足跡があったので、変だなと思って撮りました。」

この写真はすごくおもしろかったです。これは明らかにある動物か生き物の足跡と思われる。何かの生き物が間違いなく通った跡だと思うのですが、そういうのを想像しながら見る景観というのもおもしろいなと思いました。これもまさに近景です。



この写真は誰ですか？これはどんな思いで撮りましたか？

(生徒)「変わった形で、整えられた木だなと思って撮りました。」



僕もこれを見た時に、不思議な形でユーモラスな、さっき見た力強い木ではなくて、ちょっと思わず笑ってしまうような変わった木だと思いました。

この写真は誰ですか？これはどんな気分で撮りましたか？

(生徒)「木が少し雪をかぶっていて、かわいいなと思って撮りました。」



僕もそう思いました。さっきのユーモラスな形で立っているのもこれも木なのですが、ちょっとかわいくて雪がのってて不思議な景色、デザインだと思いました。

この写真はどういう写真ですか？

(生徒)「枯れていた木で、中に穴があいていたので、変な木だと思って撮りました。」



実は、この間黒岩小学校でやったときに、一番背の高い男の子が一番小さなものを撮ってきたのです。僕はこの写真を撮った人がさっきの足跡とか鳥を撮った人だとわかっていたので、今日どうい人かなと思っていました。小さなものに目がいく人というのは、僕の今までの経験によると結

構体の大きい人がいて、今日も結構背が高かったのでこの説は今日もまた当たりました。高いところにいるから高いものを見るわけではなくて、こういう小さなものに気がつくのです。彼の写真はそういうものがすごく多かったです。

この写真もだと思います。これは何の写真ですか？

(同じ生徒)「一本だけ出ていたので不思議に思って撮りました。」

景色って最初に僕が見せた、向こうに山が見えるという、このまちが大好きという景色と、みんなが歩いていて見ている時に「何だ？」と思うような小さな景色と、その両方があって、その両方の写真をみんなが撮ってきてくれて、僕は今朝見ながらすごく楽しかったです。

この写真は誰ですか？これは何の写真ですか？

電球はわかったのですが、この夏の景観を見たいです。何なのかなと思って、不思議な景観だと思って選びました。



これはさっき言ったように、「安全第二」がす

ごいと思って選んだだけではありません。「ん興業」の前は何なのだろうと思いました。会社の名前だから「佐藤興業」とか「斉藤興業」というのはわかりますが、どう考えても「ん」というのはおかしいです。それとこの「安全第二」が不思議だと思って選びました。

この写真は誰ですか？これは何ですか？

(生徒)「帰り道にこういうポストがあったので撮りました。」



こういうのは住んでいる人がつくる景観です。さっきまでの写真は、我々が見て大事にしたいと思ったり、守る景観です。これはユーモアな気持ちのある人がつくった景観です。

これは聞いたかったのですが、これはたぶん雪の上の方の屋根の部分から雪が落ちてきていて、この部分が何となく生き物か何かに見えて撮ったのかなと思いました。よくいい瞬間に撮ったなと思いました。



この写真は誰ですか？これは何を撮りたかったですか？

(生徒)「林の中に隠れている電柱です。」

まちの中だったらわかるけど、なんでこんな所に電柱があるのだろうかとか、携帯電話の電波塔を撮っている人もいましたが、木にいっぱい葉っぱがあると隠してくれるのですが、冬になると見えてしまいます。



この写真は誰ですか？これは何でしょう？

(生徒)「人工物に自然のものが巻きついていたから撮りました。」

まさに不思議な景観です。

ここからは、1人1人というよりも、やっぱり太陽の写真とかお月さまの写真が意外に多くて、しかもこれは朝の太陽かなとか、これは夕日かなというのが結構ありました。この写真は誰ですか？これはいつの写真ですか？

(生徒)「夕日です。」

結構夕日とか、うまく雲の中に太陽があって、昔のカメラでは撮れなかったのですが最近のデジタルカメラでは撮れてしまう、不思議な味わいのある写真ができます。季節とか時間が違うと同じものでも全然違ってきます。





この写真こそ、遠景、中景、近景です。この景色を見て楽しんでほしいです。向こうの木の色と中間の木の色と近くの木の色と、近くで見ると同じです。でもこうやって遠くから見ると違う、全部合計すると緑になるのですが、その違いをいつも見ている僕らの目はものすごいということをもみんな思ってください。

この写真は何を撮りたかったのですか？



パッと見るとピントが合っていないように見えます。動きがある写真とかこの木が風の中で揺れている場合もぶれてしまってこう見えてしまうのだけど、この何となく不思議な雰囲気の木の写真というのも悪くないなと思いました。

この写真は誰ですか？これはどうやって撮りましたか？

(生徒)「カメラの機能を使って撮りました。」
すごいね。みんな、カメラにこういう機能があります。周りを薄くして、背景にして、真ん中だけをクローズアップする撮り方もあります。写真って結構おもしろいから、見せたくない景観をこうやるとうまくいきます。



最後は絶対聞きたかった人がいました。これは何でしょう？

(生徒)「実験中に、今までの実験の中で一番きれいに結晶ができたわりには溶けてしまった。」
わかりました。結晶を撮りたかったのですね。景観、景色だけど、一番ミクロの写真でうまく撮れなかったという話だけど、それが一枚入っていたのでわざと選んできました。景色は、ものを見るというのは理科の実験の中からはじまっています。もっと言えば、理科の実験をしている時に窓の外を見れば景観が見えるのですが、これもひとつの景色です。



この写真はおもしろいです。ひとつのものを色々撮っているのでも枚数が増えてしまったのです。

川の写真も多かったです。

空に木がある、こういう写真を撮れるまちというのはいいです。

これは電線が邪魔です。

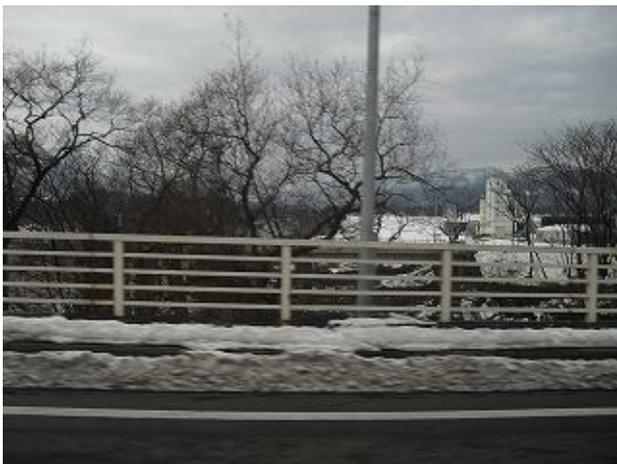
これは欄干の写真です。真ん中に電柱がボンと立っている。無いとこんなに美しいです。

これはすごい太陽だと思います。なかなかいいタイミングで撮れたと思います。



すごい、山みたいです。これも不思議な雲です。たぶん時間ずっと撮っているのでしょう。だんだん変わってくるので。

ひとりの人間の頭の中に、この猫をこんなにクローズアップして撮る顔と、遠くの山を見る写真と、太陽とか月を捉える目と、しかも時間をゆっくり撮っているのがいいと思ったので、最後に見せました。



写真というのは、こうやって時間をかけて同じものを見たり、たまたまみんなは12月・1月の冬休みにやりましたけれども、同じ場所の写真を2年生に上がって7月とか8月にもう1回撮ってみると、ものすごくおもしろいです。違います。日本は季節があるのが素晴らしいわけで、全く同じ角度で試しに撮ってみて、2つ並べてみると、きっと何かに気づきます。あるいは5月ぐらい、そういう時すごくおもしろいので、ぜひ楽しんでもらいたいと思います。

では、僕の特別授業はこれで終わりにします。



こういう写真もすごくいいです。向こうの雲が